

## English follows Japanese

### 詩編 100 篇 神の恵みの 60 年

60 年前の 11 月に主に駐留アメリカ軍属のクリスチャンの集まりが神に導かれて今日皆さんご存じの横浜国際バプテスト教会を形作りました。E-ニュースレターを購読されていれば今私がお話している YIBC の物語の沿革を読まれたことでしょうか。そして神がここ横浜に於いて YIBC を通して目的を果たされるために多くの人々を用いられたことをお知りになったでしょうか。今日私は実のところ雄司先生の証を中心に過去に神がどのようにここ YIBC で御業を行われたかを私たちに気づかせてもらいたいと考えています。また、同時に神の御言葉に少しの時間浸り私たちの創立 60 周年記念の祝いが実際なんであるかを知ろうと思ひます。

詩編 100 篇は私が教会やクリスチャンスクールで成長していく過程でアメリカの感謝祭シーズンによく引用した詩編です。そして今日、当教会設立 60 年目にぜひ考察したい詩編です。詩編 100 篇です。

#### 詩篇 100 篇 1~5 節

1. 全地よ 主に向かって喜びの声をあげよ。
2. 喜びをもって主に仕えよ。喜び歌いつつ御前に来たれ。
3. 知れ。主こそ神。主が私たちを造られた。私たちは主のもの主の民その牧場の羊。
4. 感謝しつつ主の門に賛美しつつその大庭に入れ。主に感謝し御名をほめたたえよ。
5. 主はいつくしみ深くその恵みはとこしえまでその真実は代々に至る。

祈りましょう。

毎年、YIBC の創立記念日に私たちは 伝統的な感謝祭の

食事会で感謝祭を祝って来ました。そしてもちろん食事と交わりをととても楽しみにしていますが、私たちはこの日の真に重要な点を記念します。それは神に感謝することです。

今日、私たちはこの詩編に沿って行きながら、賛美と礼拝で感謝を表し主に向かって喜びの声をあげます。主に向かって喜びの声をあげる、またこのような賛美を捧げるとはどういう意味でしょうか。この賛美と感謝はこの聖句で二通りの方法、奉仕と歌、で表されています。詩編作者は喜びから直接奉仕に進みます。喜びをもって主に仕えよ。さて、中にはこれは普通じゃないと思われる方々もいらっしゃるでしょう。喜びは、仕えることではなく、仕えてもらうことから来るはずですが、しかし、神の経済は異なります。喜びは仕えることによって来ます。神への奉仕に最も投資している人たちがほど喜びに満ち溢れています。一般的に教会で最も謙虚に忠実に仕えている人たちがほどその奉仕の内に最も喜びを持っています。神の栄光のためではなくあなた自身の栄光のためにしているのであれば、神の喜びを体験することは出来ないでしょう。しかし、神の栄光のために奉仕していれば、奉仕する人に喜びがもたらされます。先に触れたように、喜びは歌うことから来ます。詩編の詩人は続けます。喜び歌いつつ御前に来たれ。私たちは喜びをもって仕え、神の御前に歌いながら来ます。聖書の記録が始まった時から歌は神の民の礼拝の一部でした。そして私たちの歌の大部分は喜びあふれる私たちの神への感謝の歌であるべきです。

日本は音楽の国です。どこに行っても音楽が聞こえます。電車の駅にもテーマ曲がありますセブンイレブンにもテーマ曲があります。夢見心地の僕と学園の女王だった彼女（ザ・モンキーズのデイドリーム・ビリーバー）。ヨドバシカメラにも歌があります。私が慣れ親しんでいたリパブリック讃歌は、カメラはヨドバシカメラに変わりました。ここには私が世界中の他の場所には見つけることができない人生のサウンドトラックがあります。そして、クリスチャンには、私たちの心を満たす賛美のサウンドトラックがあるはずですが、私たちはいつも大声で歌うことはないかもしれません。絶対に大声で歌うべきでない人もいるかもしれません。しかし、主の喜びは私たちの生活において常にあり、賛美の歌に表されるべきです。聖書は私たちに神の民として共に彼の体なる教会として集まるよう、互いに詩と賛美と霊の歌をもって語り合い、歌をもって神を礼拝するよう命じています。教会については、エペソ人への手紙 5 章 19 節は言います。

詩と賛美と霊の歌をもって互いに語り合い、主に向かって心から賛美し、歌いなさい。礼拝式は神の御言葉を通して神を崇めることですが、多くの礼拝での神の御言葉の語りは歌を通して行われています。今日、私たちがこれらの歌を歌う時、神が与えられたものを感謝するため皆さんが互いの励みとなり、これらの歌を歌う時、神に向かつて神の御業と与えられたことに賛美の歌を歌います。あなたのお隣に座している方に今どんなことが起こっているのか知る由もありませんが、神の憐みは彼らのどんな失敗や過ちをも覆います。彼らの過去の人生は赦されており、彼らは今、神の食卓にイエス・キリストを通して神の友として神の息子又は娘として座していることを思い出させる必要があります。私たちは神に私たちの上に

注がれた彼の大きい憐れみに感謝し、私たちに救いをもたらした主の十字架での犠牲に感謝するためにこれらの歌を歌います。

神が彼の民のために引き受けたそれらの過去の行いは詩編の詩人がこの詩編で賛美の中心としている所です。彼は言います。*知れ。主こそ神。主が私たちが造られた。私たちは主のもの主の民その牧場の羊。*時間をかけて神に感謝する時、神が何をなさって下さったかを思い出させてくれ、彼が誰であるかを指し示します。その誰かは神です。大宇宙の絶対主権者はこの世界のすべての栄光にふさわしいのです。この世の人々は彼らの創造主、神を知らずに真の感謝の意を示すことができます。しかし、クリスチャンの視点から真の感謝は私たちの人生のすべての神である神がすべての栄光にふさわしいことに気づき認めることです。栄光という言葉は重量がある、重いという意味を持つヘブライ語に由来します。コリント人への手紙 第二 4章17節で聖書は言います。

*私たちの一時の軽い苦難は、それとは比べものにならないほど重い永遠の栄光を、私たちにもたらすので*す。そして私たちが神のなされたこと、また神が私たちに与えたものを見る時、私たちはそのすべてを与えられるお方がそれらすべての物や与えられた賜物よりはるかに偉大で、はるかに重く、ふさわしいことを知ります。その事実は私たちの人生のすべてに対する真の感謝に導くでしょう。

そしてすべてを感謝する時、最も基本的事実である神が私たちが創造されたことから始め、正しく主を創造主として見れば、彼が神であることを認めざる得ないでしょう。そして、私たちの創造主であれば、私たちは彼の所有で、神が創造物と言う彼の作品に対して陶芸家としての権利を有されます。

エペソ人への手紙 2章10節は思い出させてくれます。

*実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。*もしかしたら、あなたは今日この詩編によってあなたにも創造主がいることに気づかれたかも知れません。創造主を持つとは創造された私たちは私たちが創造された方を反映する責任があるということです。私たち全員が自分たちの罪のためにそれができていません。しかし、ここYIBCでキリストの体である私たちにとって私たちが裏切った神が、その独り子、神御自身である

イエス・キリストを私たちの罪の贖のために私たちの身代わりとなり死ぬために遣わされた事が私たちの喜びと感謝の理由であることを知っていただきたいのです。今日あなたも私たちと同じ喜びと感謝をイエス・キリストに信仰を置き、彼をあなたの主として救い主として受け入れれば体験することができます。時間をかけて神に過去の事を感謝することは大切です。神があなたを創造されたことを感謝することは大切です。そして神に過去に神が神の民を通して御業を行われたことを感謝することも大切なことです。ここで気づいていただきたいのは神の民は複数形であることです。私たちは神の民、私たちは神の物、私たちは神の羊です。神は集合的に神の民を通して御業を行われました。今日は彼の教会を通して。ですから、今日私たちは過去に神がYIBCのために行われたいくつかの事を思い出したいと思います。そして、それらの過去の働きに関して神のなされたことに感謝と賛美を捧げ祝います。しかし詩編100篇がどう終わるか見てください。*主に感謝し御名をほめたたえよ。主はいつくしみ深くその恵みはとこしえまでその真実は代々に至る。*神の御業は1960年教会が開拓されたところで終わりませんでした。1974年に新しい日本人教会が開拓された時も終わりませんでした。新しい牧師が来ては去っても終わりませんでした。神の御業は私が去っても、皆さんの内の誰が去ろうとも終わりません。*主はいつくしみ深くその恵みはとこしえまでその真実は代々に至る。*私たちの祈りと心の願いと中心は過去の神の働きに頼るべきではありません。その代わりに 未来を見据えるべきです。私たちの祈りは、もしキリストがまだ戻っていらなければ将来の世代がYIBCの2020年、2025年、2030年、2040年と神の誠実を見ることができるよう。私たちの祈りは、彼らがYIBCから開拓された洋光台キリスト教会、クロス・チャーチ・横須賀だけを見るのではなく、私たちが誠実な神に仕えることによって、次から次へと教会を開拓し、忠実に弟子を造ることです。そして将来の世代がYIBCを振り返りそれらの出来事を見る時、私たちの会衆としての努力や才能や能力、財力ではなく、すべての祝福と恵みの源である神すべての賛美にふさわしい神によるものであること知るので。祈りましょう。

## Psalm 100 – 60 Years of God’s Grace

60 years ago this month, a group of primarily US military connected Christians were led by God to become what we know today as Yokohama International Baptist Church. If you get the E-News and have read the brief history stories of YIBC that I have been sharing, you will know that God has worked through many people to accomplish his purpose here in Yokohama through our church. I really wanted today to focus on Yuji-Sensei sharing his testimony to remind us of how God has worked here at YIBC in the past. But I also want to spend a few moments in God’s Word to remind us of what celebrating our 60<sup>th</sup> Anniversary is truly all about. Psalm 100 is a Psalm I grew up quoting in church and Christian School during the American Thanksgiving season, and it is the Psalm that I want us to consider on our 60<sup>th</sup> year of existence as a church. In **Psalm 100 we read, Make a joyful noise to the Lord, all the earth! <sup>2</sup>Serve the Lord with gladness! Come into his presence with singing! <sup>3</sup>Know that the Lord, he is God! It is he who made us, and we are his; we are his people, and the sheep of his pasture. <sup>4</sup>Enter his gates with thanksgiving, and his courts with praise! Give thanks to him; bless his name! <sup>5</sup>For the Lord is good; his steadfast love endures forever, and his faithfulness to all generations.** Let’s pray.

Each year on our Anniversary, we do take time to celebrate Thanksgiving with a traditional Thanksgiving meal. And I hope even though we look forward to the food and fellowship, we remember what the real point of this day is. It is to Thank God! We do that in our praise and our worship as we follow this Psalm and make a joyful noise to the Lord! What does it mean to make a joyful noise to the Lord, and to give him this type of praise. There are two ways that this praise and thanksgiving show up in this passage – service and song. The Psalmist moves from joy directly to service. **Serve the Lord with Gladness!** Now for some of us, this may seem unnatural. Joy should come from being served, not serving. But God’s economy is different. Joy comes from serving. Those who are most invested in ministry to God are the most joyful. I would say that generally those who serve humbly and faithfully in the church and are the most invested in the ministry of YIBC are the most joyful in that service. Now if its done for your own glory and not God’s, then of course those people do not experience God’s joy. But serving for God’s glory brings joy to the one who serves. As I mentioned earlier that joy comes out in singing as well.

The Psalmist continues, **Come into His presence with singing!** We serve with gladness and then come into God’s presence with singing. Singing has been a part of worship for the people of God for as long as Scripture records. And a large part of our singing should be joy filled songs of giving thanks to our God. Japan is a land of music. Everywhere you go there is a song playing. There is a song for the train. There is a song for Seven Eleven … daydream believer and a homecoming queen… There is a song for Yodobashi Camera that has replaced what I knew as The Battle Hymn of the Republic! カメラはヨドバシカメラ. There is a soundtrack to life here that I haven’t found in other places around the world. And for a Christian, there is a soundtrack of praise that should fill our lives. Now, we may not want to sing out loud all the time, and maybe some of us should never sing very loudly. But, the joy of the Lord should be a constant presence in our lives and should be expressed in singing praise.

The Bible commands us that when we come together as the people of God, as his body, the church, that we are to speak to each other through singing and to God in worship through singing. In speaking of the church, **Ephesians 5:19 says, addressing one another in psalms and hymns and spiritual songs, singing and making melody to the Lord with your heart.** The worship service is about the worship of God through the Word of God, but much of the speaking of the Word of God in the worship service is done through singing! Today, I hope as we were singing these songs, that you were singing them to each other as encouragement to those around you to thank God for what they have been given and that you were singing them in praise to God for what he has done and given. That person sitting beside you may be going through something you have no idea of and needs to hear that God’s Mercy is greater than any failure on their part.

They may need the reminder that their past life is forgiven and they are seated at God's table as his friend and his son or daughter through Jesus Christ. We also sing those songs to God to say thank you for your great mercy that poured out on me and thank you for your sacrifice on the cross that has brought us salvation.

Those past actions that God took on the part of his people is where the Psalmist focuses his praise at in this Psalm. He says, <sup>3</sup> **Know that the Lord, he is God! It is he who made us, and we are his; we are his people, and the sheep of his pasture.** When we take time to thank God, we are reminded of what he has done, and that points us to who he is. And who he is, is God. The sovereign ruler of the universe who deserves all the glory in this world. People in this world can express true appreciation without knowing God, their creator. But, true thankfulness from a Christian perspective recognizes that God deserves all the glory as God for everything in our lives. The word glory is derived from the Hebrew word that also carries the meaning of being weighty or heavy. In **2 Corinthians 4:17 the Bible says, For this light momentary affliction is preparing for us an eternal weight of glory beyond all comparison**... And when we look at what he has done, and even what he has given us, we know that the giver of those things is far greater, far more heavy or weighty or worthy is another way to put it, than the gift that is given. That fact should lead us to real thanksgiving for everything in our lives.

And as we give thanks for everything, starting with the most basic fact that God created us, you cannot help but know that he is God when you rightfully see him as Creator. And as our creator, he owns us, and has the right of a craftsman over his creation. As **Ephesians 2:10 reminds us, 10 For we are his workmanship, created in Christ Jesus for good works, which God prepared beforehand, that we should walk in them.** Perhaps you are here today, and you have recognized in this Psalm that you do have a creator. Having a creator means that we have a responsibility as a created being to reflect the one who created us, which we have all failed to do because of our sin. But we as the body of Christ here at YIBC want you to know that the reason for our joy and our Thanksgiving is because the God who we failed sent his own son, also God himself, Jesus Christ, to die in our place to pay for that sin. Today, you can experience our same joy and thanksgiving by placing your faith in Jesus Christ and accepting him as your Lord and Savior.

Taking the time to thank God for the past is important. It is important to thank God that he created you. And it is important to thank God for the past of a people of God that God has worked through. Notice the pronouns here are plural – we are his people, we are his, we are his sheep. God has worked collectively through the people of God, today through his church. So today we have tried to remember some of the ways that God has acted on behalf of YIBC in the past. And for those past actions we give thanks and praise and celebrate what God has done.

But notice how Psalm 100 ends, **Give thanks to him; bless his name! <sup>5</sup> For the Lord is good; his steadfast love endures forever, and his faithfulness to all generations.** God's work did not end in 1960 when the church was planted. It didn't end in 1974 when the new Japanese church was planted. It didn't end as pastor after pastor left the church and the new one came. God's work will not end when I'm gone or when any of us is gone. **God's steadfast love endures forever and his faithfulness to all generations!** Our prayer and our hearts desire and focus should not be to rely on the past action of God, but it should be looking forward towards the future. Our prayer should be that future generations see God's faithfulness in the Yokohama International Baptist Church of 2020 and 2025 and 2030 and 2040 if Christ does not return. Our prayer should be that they don't just see Yokodai Christian Church and Cross Church Yokosuka planted from YIBC, but church after church after church planted and faithfully making disciples because we serve a faithful God. And if future generations at YIBC are able to look back and see those things happen, it will not be because of our great efforts or our ability or our wealth as a congregation; but it will be because of our God from whom all blessings flow, and to whom all praise is due. Let's pray.